

⑭災害に負けない住民主体のまちづくり ～中越大震災と中越沖地震を被災して～

北条地区自治防災組織（柏崎市）

団体概要

設立年度：平成 年度
人口：3,404 人
世帯数：1,138 世帯
（ともに平成23年3月31日現在）



無線訓練の様子

地域の状況

地理的状況

北条地区は、柏崎市の東北端に位置し、農・山村地である。高齢化率は、36.8%となり、過疎、少子・高齢化の伸展が著しい地域である。

過去の災害：H16中越地震 H19中越沖地震

○組織結成の経緯

（結成までの経緯）

●H16年の中越大震災では、柏崎市内で最も大きな被害を受けたが、当時23町内会で構成されていた地域を統括する防災組織はなく、被災者に対する町内会の対応もバラバラであった。地域の防災力を問われた総代会とコミュニティ振興協議会では、共同で課題を整理し、安心・安全のまちづくりに向け地域防災組織を整備し、これまでの活動を見直すことにした。

（結成の際に苦労、工夫したこと）

●コミュニティが地区の災害対策本部となることを条件に各町内会が自主防災組織を整備した。

○特徴的な取り組み内容

（自主防災組織活動の詳細な内容）

- ①コミュニティと各町内会の自主防災会の整備
- ②災害時要援護者台帳と防災福祉マップの整備
- ③防災訓練実施（市、自衛隊等の参加）
- ④コミュニティの総菜屋「暖暖（だんだん）」の開設
- ⑤コミュニティセンター前に避難道路新設の取り組み
- ⑥防災携帯無線整備に向けての取り組み
- ⑦地元コミュニティでの避難所運営
 - ・全町内会の被害状況を集約し市に伝達、市災害本部からの情報を全町内会へ周知・伝達
 - ・支援物資の取りまとめ、調達・配布
 - ・地区内3避難所の対応及び避難者の悩み相談
 - ・発災直後3日間の炊き出し
 - ・自衛隊及び市の炊き出しの配食及び食数の調整
 - ・仮設住宅希望者の取りまとめ
 - ・ボランティアの受付、視察対応、仮設トイレ及び館内清掃等



炊出し訓練の様子



救護訓練の様子

○組織の形態

本部長 - 副本部長 - 21町内自主防災会 - 班長（1～5班）
 （会長 - 副会長）
 班員・・・

○活動の成果や問題点など

【よかった点など】

- 中越沖地震発生時の地域対応（中越地震の教訓が生かされた点）
 - ・北条地区災害対策本部の設置・・・発災1時間後に開設
 - ・各自主防災会からの迅速な被害報告・・・発災から2時間で集約
 - ・迅速・公平なる物資の配布（避難所に足を運べない人たちへの配慮も行った。）
 - ・防災会議の開催（第1回7/17 第2回7/26 第3回8/6）
 - ・発災後の炊き出し及び暖暖スタッフによる支援体制（自衛隊の炊き出しが終了するまでスタッフによる支援体制を継続した。）

【苦労した点など】

- 「コミュニティは地域のためにある」との責務を感じて平時から活動をしている。また、北条地区はコミュニティと町内会が日ごろから連携して活動していることもあり特別に苦労したという感覚はない。しいて挙げるとすれば、個々の自主防災会での運営体制の強化が課題で、会長がいない場合に機能するのか、情報連絡体制は大丈夫なのかなど平常時の訓練を継続していくことである。

○活動の課題や今後の取り組みの予定

【課題となっていること】

- 中越沖地震後の取り組み
 - ・避難道路の新設
 - ・携帯無線の整備
 - ・「北条地区コミュニティ復興基本計画」の策定
 - ・「北条つらなす」の特産化・ブランド化を目指しての取り組み
 - ・復興イベント『絆』の開催
 - ・更なる災害に強いコミュニティづくりを目指しての取り組み